

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		bamboo谷山				公表日		2026年2月10日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・個別対応が必要な際は、職員対応数を増加している。	・必要以上の人員配置は避けて対応できている(過剰な支援、依存への配慮)。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・必要に応じて見直す ・視覚支援の活用。 ・階段	・雨天時の滑り止め予防目的で、玄関にはマット配置を検討。 ・階段前のゲート設置を検討。必要な児童に関しては臨機応変に1Fまで職員が降り、保護者に引き渡しを行う。			
	4	・雨天時の滑り止め予防目的で、玄関にはマット配置を検討。 ・階段前のゲート設置を検討。必要な児童に関しては臨機応変に1Fまで職員が降り、保護者に引き渡しを行う。	○		・定期的清掃	・担当表に明記された以外に、十分に掃除が行き届いていない場所がないか、随時確認する。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			・リラックスルームは面談室になる。鍵が付いていたり、目が届きにくく可能性があり、今後条件付きの介入が必要となる。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・ケース会議の実施。	・午後の集団活動の振り返りは、時に時間を設けにくい。振り返りの時間を設定することを検討する。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・可視化できるとなお良い。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・聞き取り、ケース会議を実施。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○						
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・定期的に研修を実施。	・放課後デイでの1つの困りとして学習支援がある。これに関しては十分に知識を持ったスタッフは不在であり、今後必要に応じて育成を行う。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○						
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○						
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○						
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・遠城寺、JPN				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○						

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・週ごとに専門的視野からアドバイスを頂いている。	・保育士をメインにできている。もう少し活動案を深めるためにリハスタッフが参画する時間も設けたいところである。午前の時間の使い方を再度見直しを行う。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・PDCAサイクルで経過を追っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・必要に応じ個別、集団の声かけを実施。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・午後の開始前にミーティングを実施。	・限られた時間の中で、内容を簡略化しながら、要点を押さえた取り組みを行うことができている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・後日になることも多々ある。 ・翌日に振り返りを行っている。	・当日は難しいため、翌日の12:15-12:30を振り返りの時間に充てる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・PDCAサイクルで経過を追っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		・移行した児童はまだいないため。	・今後該当する児童あり。就労に向けた情報提供書作成を行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・機会なし	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			・現時点では優先度は低いと考えている。今後事業所の体制が整い次第、必要に応じて検討。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		・まだ機会がない。今後積極的に参加する。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			・必要に応じて個別活動を案内するなど、柔軟な対応を継続。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・放課後デイ利用の家族に対する研修はない。同じ校区の保護者同士で話す機会があれば就学前の不安軽減にも繋がるのではないかと。 ・就学に関する研修はできているが、ペアトレは不十分。 ・保護者会の実施。		

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○			・概ねできているが、各スタッフがさらに得意分野を深めると、さらに助言の質が高められる。主にセラピストは得意分野領域を持ってもらい、保護者対応できるまで教育することが必要。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			・児童発達支援と違い、お子さんが大きくなるとさらにハードルが高くなるようである。必要に応じて預かり体制を整備することで、関わりの場を作ることを検討。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			・放課後デイのneedsが高い現状があり、今後必要に応じて体制の見直しを行う。(集团の日を増やす)
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・SNSを活用。 ・インスタグラムなど。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・必要に応じて視覚支援を活用した。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・今後は公民館に入るなどの対応		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・策定、訓練ともに不十分。	・重要箇所には付箋を貼り、職員がいつでも確認できるような仕組みにする。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・消防訓練を実施。	・今後実施予定。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○			・既往でてんかん発作がある児童あり。てんかん発作が起きた際の対応方法は、再度周知する必要あり。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・十分でない。	・今後研修を実施予定。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			・報告すべき事案が共有されない場合があるため、ヒヤリハットの目的（事故予防）を再確認し前向きな予防検討につなげたい。あわせて、概要理解を目的とした研修を実施する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			・虐待防止に関する研修を実施する（2-3月実施予定）
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			・身体拘束に該当する児童はいないが、想定されるケースについて周知を行い、あわせて委員会ファイルの整備を進める。	